

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4094900042		
法人名	有限会社 オアシスの会サポートセンター		
事業所名	グループホーム オアシス		
所在地	〒807-0133 福岡県遠賀郡芦屋町大字芦屋1233-3 Tel 093-222-1117		
自己評価作成日	平成31年01月10日	評価結果確定日	平成31年02月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様、家族とのコミュニケーションを大切に顔見知りの関係を築き、何でも気軽に相談できる関係を築いている。 又、環境整備には気を配り心地よく生活できる空間作りをする。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	平成31年02月07日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「オアシス」は、地域に開かれた事業所を目指し、運営推進会議を通して地域や行政と意見や情報を交換し、高齢者の介護相談や高齢者の見守りを行い、頼れるグループホームを目指している。利用者や職員は天気の良い日は、散歩や買い物に出かけ、室内ではレクリエーションや手芸、リハビリ等に取り組み、利用者一人ひとりの心身機能の維持を目指している。協力医療機関の医師と連携した安心の医療体制により、終の棲家として看取りの支援にも取り組んでいる。調理上手な職員が交代で作る料理は、味や彩り、盛り付けや形状に配慮し、利用者や職員が談笑しながら一緒に食事を楽しむ様子は、微笑ましいものがある。また、回想法を取り入れ、元気な笑顔を取り戻した利用者を見守る家族からは、感謝と喜びに包まれ、家族と深い信頼関係が築かれ、今後益々期待できるグループホーム「オアシス」である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・事業所内に掲示 ミーティング時に全員で唱和している。 	ホームが目指す介護サービスの在り方を明示した理念を見やすい場所に掲示し、毎月の職員会議で唱和して、理念の確認と意識付けを行っている。職員は、利用者一人ひとりと向き合い、利用者の目線で声掛けを行い、利用者一人ひとりが自分らしい生き方で暮らせる、介護サービスに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・地域の行事への参加。(尾籠、祭り、廃品回収等) 	運営推進会議の中で地域代表から情報を得て、行事や活動(尾籠、夏祭り、廃品回収等)に、利用者職員が参加している。神社の催事の際にはグループホームや認知症の啓発を行い、少しずつ地域の方々に理解してもらい、地域交流の輪が広がり、信頼関係が始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・地域の方がご家族の介護の相談に来られた際にはアドバイスをしている。 		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・1回/2ヶ月開催し、地域の方、包括、家族方等との意見交換を行い、地域の情報、家族の意向等を知ると共にサービスの向上に努めている。 	2ヶ月毎に開催する運営推進会議は、ホームの運営や取り組み、課題やヒヤリハット等を報告し、参加委員からは、質問や要望、地域の情報等が出され、活発な意見交換会である。出された意見や要望はホーム運営や、業務改善に反映出来るように取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・必要時に当グループホームの地域担当者に連絡、相談助言を受けている。 	運営推進会議に、地域包括支援センター職員が参加し、ホームの現状を伝え、意見交換を行い協力関係を築いている。管理者は、ホームの空き状況や介護の疑問点、困難事例や事故等の内容を行政に相談し連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・介護職員での勉強会、検討会を行い周知徹底を行っている。危険の無いように見守り強化に努める 	身体拘束の職員研修が義務化されたので、職員研修会や会議の中で身体拘束について学ぶ機会を得て、職員一人ひとりが、身体拘束が利用者に及ぼす弊害について理解し、具体的な禁止行為の事例を挙げて検証を行い、身体拘束をしない介護を目指し、利用者の安心した暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・介護職員で勉強会を行い周知徹底を図る。何が虐待にあたるか知る事で虐待防止を図る事が出来る。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・定期的に勉強会を行い、理解を深めると共に知識の向上に努めている。 	職員は、成年後見制度の重要性を理解し、外部の研修会に参加を得て、制度の理解に取り組み、パンフレットや資料を用意し、利用者や家族が必要になれば、制度の内容や申請手続きについて説明を行い、利用者の権利や財産が不利益を被らない支援に取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・契約時、改定時には重要事項説明書を元に説明し、理解・納得を得た上で、署名・捺印を頂く。 		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・1回/2ヶ月開催する運営推進会議に参加して頂き、要望・意見を聞き、サービス向上に反映させている。面会時にも要望等あれば聞き取り支援に反映させている。 	職員は、日常生活の中から利用者の思いや意向を把握し、家族面会時や電話で話し合い、家族の意見や要望、心配な事等を聴き取り、出された意見や要望は出来る事から速やかにホーム運営や利用者の日常介護に反映させている。また、運営推進会議に家族が参加して活発な意見交換が行われている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・一回/1か月 行っているミーティングで意見や要望を聞き取り、順次改善を行っている。 	毎月定期的に職員会議を、職員全員が参加して開催している。利用者の小さな変化や気付きを出し合い、今後の介護方針についての検討が行われている。また、ホーム運営や業務についての意見や要望が活発に提案され、出された意見を反映出来るよう取り組み、充実した職員会議になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・資格、勤続年数等で給料面で考慮したり、個々にあった勤務体制にて継続して勤務出来る環境作りに努めている。 		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・採用の際には年齢、資格の有無に囚われず、個人の能力で採用する。 	職員の募集は、年齢や性別の制限はなく、働く意欲や人柄を優先している。管理者は、職員の特技や能力を把握し、適材適所の役割分担や勤務体制に配慮し、働きやすい職場環境を目指している。ベテランのパート職員と常勤の職員が利用者を支え合い、職員一人ひとりが自分の役割を自覚し、チーム介護で取り組んでいる。職員会議の中で研修会を実施し、介護技術の向上を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・ミーティング時に情報を共有し入居者がその人らしい尊厳のある暮らしが送れるように取り組んでいる。 	利用者の人権を守る介護サービスの提供について、職員間で話し合い、利用者の個性や生活習慣を把握して、言葉遣いや対応に注意し、利用者本位の尊厳のある暮らしの支援に取り組んでいる。また、職員は常に理念を意識して介護の実践に取り組み、利用者の満足と喜びに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・ミーティング時に内部研修を行い向上に努めている 		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・語らんネットに参加し、同業者との交流を図り向上に努めている。 		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・本人の思いを聞き取り早く施設生活に馴染んでもらえる様声掛けを行い馴染みの関係を早く築けるように努めている。 		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・家族の思いを受け止め、連絡を取りながら良い関係が築けるように努めている。 		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・本人、家族の訴えを聞き取り、必要性の高い要望からサービスの提供を順に行っていくように努めている。 		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・本人の体調等に考慮し無理のない程度で、出来る事を出来る範囲で一緒に行っていく。 		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・職員、家族がお互いに協力しながら本人に対し、より良いサービスが提供できるように、小さい事でも情報の共有を図っている 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・電話や来苑はいつでもできる環境を作っている 	<p>家族や親戚、友人、知人の面会時には、ゆっくり寛いで話せる場所やお茶を提供し、何時でも面会出来る雰囲気作りを心掛けている。また、同一法人デイサービスとの合同行事に出かけ、「元気やった？」と声を掛けられる等、仲の良い利用者同士の馴染みの関係継続の支援にも取り組んでいる。</p>	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・皆で過ごす空間を作り自由に利用して頂く。又、みんなでテレビを見たりレクリエーションやゲームを楽しむ時間を持てるように支援している。 		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・近況を伺い、必要時には相談、アドバイスを行っている。 		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・日頃の会話から聞き取ったり、定期的に担当者会議を開催し意向の確認を行い検討している。 	<p>入居前に、利用者や家族に生活歴や環境、こだわり、習慣、嗜好等を聴き取り、アセスメントに記録し、職員間で情報を共有して日々の介護に反映させている。また、意向表出が困難な利用者には、家族に相談し、職員が利用者寄り添い、優しい笑顔で話しかけ、利用者の表情や仕草から思いに近づく努力をしている。</p>	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・本人、家族、在宅生活時のサービス提供事業所等からも聞き取りを行い把握に努めている。入所後も会話の折に聞き入れた事案に関し職員一同で共有している。 		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・介護記録やミーティングで問題提起してもらい意見交換を行いながら個人個人の現状把握に努めている。 		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・ミーティング、担当者会議等で意見交換し反映させている。 	<p>管理者や職員は、利用者や家族とコミュニケーションを取りながら話し合い、意見や要望、心配な事等を聴き取り、担当者会議の中で職員間で検討し、利用者本位の介護計画を3ヶ月毎に作成している。また、利用者の重度化や急変時には、家族や主治医と話し合い、介護計画の見直しをその都度行っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・ミーティングにて全スタッフで情報の共有を行い実施、見直しを行っている。 		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・その時々希望に応じ、利用できるサービスの情報を提供し支援出来るように取り組んでいる。 		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・社協等、ボランティア団体等を把握し活用し活用する事で生活の質や幅を広げられるように支援している。 		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・本人、家族の希望を重視し希望の医師による医療を受けたりかかりつけ医による定期的な往診もありそれぞれの医療との連携を図り、指導、助言を頂いている。 	入居時に、利用者や家族の希望を聴きながら主治医を決定している。馴染みのかかりつけ医の往診を受けている利用者と、月2回の往診の提携医療機関の医師が主治医の利用者がいるが、各医療機関との連絡を密に行い、利用者が安心して適切な医療を受けられるよう支援に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・かかりつけの病院の看護師や往診時の看護師等と密に連絡し身体状況を把握し適切な助言を頂き支援に繋げている。 		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・入院先へ身体状況がわかるフェイスシートやアセスメント等の情報を提供し連携を図っている。カンファレンスへの参加も行い退院後の生活指導などの助言を頂いている。 		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・契約時に十分な説明の元、署名、捺印を頂く。また必要時にその都度本人、家族と話し合いを行いながら支援している。 	最後まで利用者が安心して暮らせるグループホームを目指して開設し、利用者が穏やかに暮らせる終の棲家となるよう、職員一同体制作りに取り組んでいる。また、利用者の重度化が進むと、家族や主治医と話し合い、今後の方針を確認し、利用者が安心して終末期を過ごせる環境整備に取り組んでいる。これまで、数名の看取り支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・ミーティング時や職員間で勉強を行い知識の向上に努めている。 		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・避難訓練を定期的実施し慌てず誘導できるように訓練を重ねている。地域とも避難先等協力体制を取っている。 	消防署の指導や地域代表の協力と参加を得て、年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。通報装置や消火器の使い方を確認し、利用者全員を安全に避難場所に誘導出来るように取り組んでいる。また、非常食や飲料水、非常用備品を用意し、いざという時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている 人権学習やプライバシー等の研修を定期的に行い介護者同士でお互い注意し合うようにしている 	利用者のプライバシーが損なわれないかを、カンファレンスを通じて振り返り、職員間で話し合い言葉遣いや対応に注意し、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護の実践に取り組んでいる。また、利用者の個人情報取り扱いや職員の守秘義務についても、代表が職員に説明し、情報漏洩防止の徹底を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・本人が判断出来る部分に関しては自己決定を促している。 		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・本人が希望することは、出来る限り優先した支援を心掛けている。 		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・本人の好みを優先した服装で過ごせるように支援する。定期的に訪問理美容も利用してもらっている。 		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・利用者個々の能力に合わせて、準備、片付けを共に行う。 	食事は利用者の楽しみで、利用者一人ひとりの嗜好を聴いて、職員が交代で作る美味しい食事を提供し、利用者と職員がテーブルを囲んで同じ料理を食べる様子は楽しそうである。また、「うどんやラーメンが食べたい」という利用者の希望により、外出時に食べて帰る等、食事を楽しめる支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・全員が同じではなく個別に合わせて、量、形状等変えて提供する。 		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・毎食後の口腔ケアを行ない、本人が上手く出来ない所は支援している。定期的に訪問歯科を利用し、治療、ケアを行ない指導、助言を頂いている。 		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・危険の無い範囲で出来るだけトイレを利用し排泄を行ってもらう。尿意、便意の無い方は排泄パターンを見ながら声掛け誘導を行っている。 	<p>利用者が重度化してもトイレで排泄出来る支援を目指し、職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握して、利用者を観察しながら、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間のオムツやパットの使用方法については、「こうした方がいいよ」と職員間で話し合い、改善に繋げオムツ使用の軽減に取り組んでいる。</p>	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・便秘が身体に及ぼす影響を知り食事の工夫や運動も取り入れ、また主治医にも相談し個々に応じたアドバイスを頂いている。 		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・週3回の入浴を定期的に行っている。体調や本人の希望に応じて臨機応変に対応している。 	<p>入浴は利用者の希望や体調に合わせて支援し、基本的には週3回の入浴支援を行なっているが、毎日入ることも可能である。入浴は利用者と職員が一对一でゆっくり話し合える機会と捉え、何でも話し合える関係を築いている。入浴が困難な利用者には、時間をずらしたり、職員が交代して声掛けし、難しい場合は清拭や足浴に変更している。</p>	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・本人の意思、状況に応じて支援している 		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・個々の薬の事について、医師・薬剤師と連携を図り、業務日誌や申し送り、ミーティング等確か確認する。体調の変化はその都度医師に報告に指示を頂いている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・個々の能力に合わせたレクリエーション等や、出来る手伝い等一緒に行い毎日の生活を楽しくしてもらう。 		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・家族等の協力も得ながら出来るだけ希望に沿うように支援している。 	山笠や花火大会、桜やコスモス、紅葉見学、外食や買い物等、積極的に外出の支援に取り組み、系列デイサービスの大型バスに乗って一緒に外出している。同一法人のデイサービスで行われる行事に参加して利用者の生きがいに繋げている。また、個別の買い物支援や家族との外出等、利用者が戸外に出かけられるよう支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・預り金の中で希望の物を購入したり買い物レクで外出時に好きな物を購入したりしている。 		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・自由に連絡が取れる環境を作り、また年賀状出したもする。 		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・共用の空間では、みんなが気持ち良く過ごせる環境を作り、季節感を感じられる飾り付け等工夫をしている 	食事を行うテーブル席と、ソファに座ってテレビを見ながらゆっくり寛げる空間に分かれ、利用者一人ひとりが落ち着く場所で、仲の良い利用者や職員と談笑しながらマイペースで過ごしている。職員手作りの作品や季節の飾り物により、家庭的な雰囲気の中で、笑い声の溢れる共用空間である。また、清掃や換気に配慮し、気持ちよく過ごせるように取り組んでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・テーブルの配置などを工夫し、それぞれがゆっくり過ごせる居場所を作っている。 		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・馴染みの物や本人の使いやすい物を持って来て頂き心地よい空間作りを心掛けている。 	エアコンや介護用ベッドを備え付けて安全に配慮している。家族と相談しながら、利用者の馴染みの筆筒や椅子、机等を持ち込んで配置し、利用者が安心して穏やかに過ごせる環境整備に取り組んでいる。また、居室の換気、清掃に気を配り、居心地良く過ごせるように支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ている ・個々の残存能力を活かし自立した生活が送れるように支援している。 		